

轟 と ど ろ

平成20年12月19日

12月号

ゆうチャレンジと全国学力テストに向けて



ゆうチャレンジは熊本県独自に行うテストで、3年生以上の児童を対象に1月14日(水)と16日(金)に国社算理の4教科で実施します。内容は、その学年で身につけなければならない基礎基本と、それを基にしながらどの程度活用できるかを把握するものです。また全国学力標準テストは、国語と算数の2教科に絞って、個人、学級、学年、学校、全国での定着度を把握するものです。これは、2月3日(火)に実施します。

それに向けて本校では、一人一人の学力を身につけさせるために、授業の充実を図ることは勿論のこと、職員朝会を減らして学力充実の時間に充てています。そこをお願いですが、是非ご家庭でも子どもたちが机で毎日決まった時間に勉強するように応援をお願いします。

授業参観・学習発表会・親子スポーツ・親子給食 そして門松づくり・PTA総会を開催！！



10日(水)には、たくさんの行事が一挙に行われました。特に学習発表会での子どもたちの演技力そして演奏力に感動されたお父さんやお母さんも多かったようです。評議員さん方も参加していただき、有り難うございました。午後からは、大人と子どもが一緒になって門松づくりに取り組みました。お陰様で正門には立派な一對の門松が出来上がりました。子どもたちは現在この門松の間を通過して登下校をしています。何だか来年も良いことが期待できそうな気がしました。

校長 コラム

「誰でもよかった。」と供述する殺傷事件の犯人の話を聞けば、苦虫をかみつぶす思いがよぎる。何でこんな人間が育ってしまったのだろうと悔やまれてならない。マスコミは、だれかれ問わず毎日のように「非難風評」を世の中に発信している。その影響は甚大である。世の中が「非難あって感謝なし・要求あって協力なし・権利あって義務はなし」の傾向が見られ残念でならない。当然、テレビは子どもたちの生活の一部となっている今、その影響を受けないはずはない。また、便利さだけがもてはやされ、不便には見向きもしない傾向が見られる。携帯電話も一人一台の時代になってきており、ちょっと出かけていって顔を見て直接話せばよいものを、そして自筆で手紙を書いて心を伝えればよいものをすぐ携帯電話に頼る風潮が急増している。人が心豊かに育つためには、人間の根本である会って目を見て会話をするなど携帯電話のような媒体を介さずに直接触れ合わなければならない。その弊害が家庭や学校そして職場に広がり、できるならば関わりたくない意識が蔓延し、人との繋がりを断絶しようとする。そうなれば、考えは全て自分中心となるのは必至。人間は、「人」と「間」で構成されている。「間」が敬遠されれば、相手を意識する心は無くなり人間ではなくなる。「間」があってこそ人間、人と人が関わり合う人間を育てていかなければならない。

がんばった持久走大会

最高の天気の下で16日(火)の午後に持久走大会を開催しました。子どもたちは、これまで早朝や業間そして体育の授業等でしっかり練習をしてきました。持久走大会は、自分の走力・精神力の伸びをはかる絶好の機会となります。当日は、低中高のスタートラインから学校を一齐にスタートしました。低学年は、村川宅前のポスト折り返し1200m、中学年は、墓地の手前カーブ折り返し1600m、そして高学年は平家の里の駐車場折り返し2000mです。毎日の練習が功を奏し、全員全力で頑張っていました。「練習は、決して裏切らない。」ということを実践の伸びを通して学びました。



入寮体験を泉中学校の協力で実施

11日(木)の夕方から12日(金)朝まで6年生3名は、来年4月に入学する泉中学校の寮に出かけ、入寮体験を行いました。中学生になると本校の卒業生は、親元を離れ、寮での生活をします。予め体験することで心の準備と不安の解消・期待につなげます。

人権について、みんなで考えた人権集会

17日(水)に人権について学習したことを基にして発表する人権集会を行いました。低学年は「さるとカニ」、中学年は「男のくせに、女のくせに」、高学年は「部落差別」について発表をしました。自己中心的な大人の事件が多発する中で、本校は小さい時から一人一人に人権について、しっかり考えさせ人権意識を育てています。

